

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

単施設研究用

## 肝動脈化学塞栓療法施行後の肝細胞癌における陽電子放出断層撮影の病理学的 残存腫瘍評価に関する検討

### 1. 研究の対象

2017 年 1 月-2026 年 8 月 に、高知大学医学部附属病院で肝細胞癌に対して肝動脈化学塞栓療法後に陽電子放出断層撮影検査を行い、肝切除術が施行された患者様(お亡くなりになられた患者様も含む)。

### 2. 研究目的・方法

肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法(Transcatheter Arterial Chemo-Embolization: TACE)は、切除不能な肝細胞癌患者様に対して施行されるほか、肝切除の術前に破裂や進行予防として戦略的に施行されることがあります。TACE 後の局所効果判定は主に造影 CT に基づく RECIST 2017(日本肝癌研究会による肝癌治療効果判定基準)により行われていますが、判定が難しく完全壊死の症例にも追加治療として肝切除が施行される症例も少なくありません。日本全体で高齢化が進む中、不要な肝切除は可能な限り回避すべきであり、TACE 後残存腫瘍を的確に評価し得る補助診断法が求められています。一方、肝細胞癌に対する陽電子放出断層撮影(Fluorodeoxyglucose positron emission tomography: FDG-PET) は原発巣への FDG 集積が不均一で偽陰性も少なくないものの、骨転移などの肝外転移の検出には有効であるとされています。今回、TACE 後病変に対する FDG-PET の診断的意義を検討するため、本研究を立案しました。

2017 年 1 月-2026 年 8 月 に、TACE 施行後に FDG-PET を撮影し、その後肝切除を受けた肝細胞癌患者様の臨床データを後ろ向きに検討します。FDG-PET における FDG 集積の有無、集積様式、SUVmax を評価し、切除標本における生存腫瘍の有無、残存パターン、分化度、腫瘍壊死率を画像上の腫瘍縮小率と比較し、TACE の治療効果判定における FDG-PET の有用性を検討します。

研究期間：研究機関の長の実施許可日～2029 年 8 月 1 日

利用または提供を開始する予定日：2026 年 10 月 15 日

### 3. 研究に用いる情報の種類

情報：生年月日、血液検査データ、造影 CT、MRI、FDG-PET の画像データ、術式、術後合併症の発生状況、病理所見

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、  
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該  
研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけ  
ない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも  
患者さんに不利益が生じることはありません。

高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

TEL:088-866-5811 FAX:0880-66-2111

高知大学 外科学講座(消化器外科学、小児外科学) 助教

谷岡信寿

\*\*\*\*\*

研究責任者：

高知大学 外科学講座(消化器外科学、小児外科学) 教授

瀬尾智

-----以上